

問 現状と対策について

答 生活保護の状況については、2月末の生活保護世帯数は264世帯で、前年度の同時期と比較して40世帯の増、保護率は0・69%で、昨年4月以降常に0・6%を超える厳しい状況となっております。現制度では、支給される保護費の負担割合が国4分の3、地方4分の1となっております、平成20年度における大洲市の保護費の総額は5億3、567万円、市の負担額は1億3、392万円に上り、平成21年度においては約1億3、500万円の負担額を見込んでいます。

ハローワーク大洲管内の有効求人倍率は、平成22年1月末現在0・62倍で、合併以降おおむね0・6から0・8倍前後で推移しており、依然として厳しい雇用環境となっております。失業者がふえることで生活保護者がふえていくことも考えられ、雇用の確保なくしては、その抜本的な解決にはなら

ないと考えています。

そのような考え方から企業誘致活動を強力に進めていくため、大洲市企業立地促進条例を制定するとともに、市内企業の育成も重要であると考え、実態把握のために企業訪問を継続しています。企業側の課題の解決に市としても何らかのお手伝いができれば少しでも経営が改善され、ひいては雇用拡大により、生活保護費の抑制にもつながるのではないかと考えています。

市立大洲病院

問 看護師の確保状況について

答 市立大洲病院における看護基準については、

平成20年1月から入院基本料7対1の施設基準の届け出をし、急性期病院として看護必要度の高い入院患者の受け入れをしており、当院でも看護師の確保は大変重要な課題と考えています。平成21年度では看護師を新規に7名採用し、平成22年度は6名の採用を予定しています。県内でも、大規

模病院で大量採用をしているため、当院も近年採用試験における看護師の応募が減少しています。このため、平成21年度に実施した採用試験から採用条件を35歳に引き上げており、平成22年度についても採用年齢のさらなる引き上げについて検討しているところ です。

当院看護師の離職率は平成20年度2・7%、平成21年度1・7%であり、極めて低い状態を保っているのですが、今後も看護師確保とあわせて、離職が少なくなるよう看護教育の充実等、魅力ある職場づくりへ努力をしていきたいと考えています。

龍馬と観光事業

問 歴史を活用した観光事業について

答 坂本龍馬はNHK大河ドラマ「龍馬伝」によ

り大きくクローズアップされており、当市には龍馬にゆかりのある河辺に龍馬脱藩の道、長浜に富屋金兵衛宅跡、江湖の港などがあり、大洲藩と坂本龍馬観光モニター事業を実施しています。

このモニター事業の途中経過ですが、明治初期の現存している蔵を活用し、大洲歴史探訪館を整備し、1月8日から大洲藩と坂本龍馬にかかわる資料をパネルにして展示しています。来館者は、2月末までで2、434人、1日平均約50人となっております。

また、いろは丸の購入に關して、歴史的に新たな事実を発見できる資料の公開の許可をいただいております。現在、歴史探訪館においてパネル展示をしているが、同時にその翻訳作業も進めており、その作業が完了すれば、新たな話題を提供できることになると考えています。



龍馬に関する史料を展示する「大洲歴史探訪館」

坂本龍馬を活用した観光事業のPRについては、モニター事業のポスターやリーフレットを作成し、旅行業者を中心に配布をしており、観光、旅行会社2社により旅行ツアー商品として取り扱っていただき、その結果約1、500人の観光客が来られ、4月以降の旅行ツアー商品としても取り扱っていただくことが内定している旅行会社も3社あることから、さらに一定の集客が見込めるものと考えています。

高速道路無料化

問 効果と新たな事業の取り組みについて

答 高速道路無料化については、6月から松山以南について試験的に実施されることから、観光分野における観光交流人口の増加や観光客の消費金額の増加などの経済効果、また地域活性化に向けての波及効果も期待しています。

一方、高速道路の利用による空洞化や通過点になることのないよう、魅力ある